



民瘼

第二



114
A/2651
2

再蒙



財産篇

財産ノ區別 不動産 動産 財産所有者ノ別

財産ヨリ生スル者ニ付本ニ曰テ支ヲ併スノ權

財産ニ附加シ且合同スル者ニ付本ニ曰テ支ヲ併スノ權

不動産ニ付本ニ曰テ支ヲ併スノ權 動産ニ付本ニ曰テ支ヲ併スノ權

入額所得ノ權 入額所得者ノ權 入額所得者ノ義務

入額所得ノ權 終つ方法 土地ニ属スル義務

土地ノ位置ヨリ生スル義務 法律ニテ定メタル土地ノ義務

雙方ノ所有ニ属スル分界ノ牆壁及溝渠

造営土功ヲ為スニ必要ナル距離及之箇ノ家屋ノ中間ニ為ス可キ造営事

隣地ヲ見通ス事 承雷

通行ノ權契ニ曰テ土地ニ属スル義務

財産ニ付キ生スル義務ノ種

土地ノ義務ヲ得ル者ノ權

大正
限正
月



民法第二卷

財産篇

財産ノ區別

五一六

第五百一十一條 凡財産ハ動カスヘキモノ有リ

之ヲ動産ト云ヒ動カス可ラサルモノ有リ之

ヲ不動産ト云フ

不動産

五一七

第五百十二條 財産ハ性質ニ因テ不動産タル

モノアリ又ハ月法ニ因テ不動産タルモノアリ
ハ又ハ權利ノ中ニ目的ニ因テ不動産ト看做
スモノアリ

五二八

第百五十三條 土地及ヒ建造物ハ其性質ニ因
テ不動産タリ

五二九

第百五十四條 建造物ノ一部ヲ為ス風車水車
モ亦其性質ニ因テ不動産タリ

五三〇

第百五十五條 未タ收取セサル菜穀菓實等モ

亦同上ノ不動産タリ

菜穀菓實等ヲ收取スル時ハ未タ他所ニ搬運
セスト雖モ之ヲ動産トス

五三一

第百五十六條 樹木ハ然ラ不動産タリ既ニ伐
リ倒シタル者ハ動産トス

五三二

第百五十七條 家屋甲地等ニ水ヲ注導スル管
又樋モ不動産トス

五三四

第百五十八條 所有ノ地ニ用ユヘキ為メ備ヘ

タル物ハ其用法ニ曰テ不動産トスル左ノ如

ル

土地ヲ耕スニ用フル獸類

小作人ニ與ハタル種物類

農具

藁及糞料

蜜蜂ノ巢

池沼中ノ魚

味噌醬油酒油及蒸溜等ノ器具桶樽ノ

類

鑄造製紙製茶養蠶及ニ其他製造ノ器

具

如何ナル動産ト雖凡不動産ニ附属シ常用ス

ル時ハ亦用法ニ因テ不動産トス

第百五十九條 建家ニ附着シタル物之ヲ離分

スル時ハ其部ヲ毀壞ス可キ者及賊盜ヲ防キ

風雨ヲ敵フニ闕可カラサル建具ノ類ハ建家
ノ造作ト看做スヘシ

但玻璃鏡畫額ヲ造リ込タル時モ亦同シ

第百六十條 左ノ權利ハ其目的ニ因テ不動産

ト看做スヘシ

不動産ノ入額ヲ得ルノ權

土地家屋供給ヲ得ルノ權

不動産ヲ取戻サントスル訴訟ヲ為スノ權

五廿六

動産

五廿七

第百六十一條 財産ハ其性質ニ因テ動産ト為
ス者アリ又ハ法律ノ定ニ因リ動産ト為ス者
アリ

五廿八

第百六十二條 有生物無生物タルヲ問ハス彼
此運移スヘキ者ハ其性質ニ因テ動産トス

五廿九

第百六十三條 人ヨリ金額又ハ動産ヲ得可キ
契約及ヒ之ヲ得可キ訴訟ヲ為スノ權又ハ會

社ニ加リテ得ヘキ分ケ前ハ金及ヒ利金ハ法律ニ於テ定メタル處ニ因リ之ヲ動産ト看做ス可シ

官府又ハ人民ヨリ得可キ有期無期ノ年金ハ法律ニテ定メタル處ニ因リ之ヲ動産トス

第百六十四條 大船小船及ヒ家屋ノ一部ヲ為スニアラルサル風車水車ノ類ハ之ヲ動産トス然レ氏此等重大ノ物件タルニ因リ訴訟法ニ

記スル所ノ如ク債主別段ノ法式ヲ行ハハ抵償トシテ奪フコトヲ得ヘシ

第百六十五條 建物ヲ毀チテ得タル木石等及ヒ新ニ建物ヲ管理スヘキ為メ集メタル木石等ハ工匠ノ未タ用ヒサル間之ヲ動産トス

第百六十六條 西洋造リノ家ニ於テ道具附キト云ヘレハ毛氈卧牀椅子鏡置時計卓子及ヒ房室ニテ使用スル陶器漆器類並ニ裝飾ト為

スヘキ物ヲ云フ

房室ノ家具、一部タル畫額及ヒ立像ハ道具
中ニ算計ス可シ

財産所有者ノ別

五三七

第六十七條 已レニ屬スル財産ハ法律ニテ

定メタル規則ヲ循守スル時ハ之ヲ自由ニ為
スヲ得可シ

會社ノ財産ハ其社ノ規則ニ循ヒ之ヲ支配シ

及ヒ賣拂フ可シ

五三八

第六十八條 私有ト為ス可カラサル道路市

街、海濱、港口、碇泊場、舟楫ヲ通スヘキ河流、海潮

ノ進退増減ニ因リ出沒スル洲河ハ官有ナリ

五三九

第六十九條 所有者ナキ財産及ヒ相續人ナ

キ財産ハ官有ニ歸ス

五四一

第七十條 城砦ノ門壁壕塹モ亦官有トス

第七十一條 既ニ戦闘ノ用ヲ廢マル城砦中

ノ地及ヒ壁壕塚ハ亦官有トス但シ官ヨリ之
ノ賣拂フ時ハ格別ナリ

第七十二條 府縣及ヒ區ニ附屬スル財産ハ
區内ノ住民相共ニ有スルトコロナリ

第七十三條 財産ニ付キ其所有ノ權ヲ有ス
ルモノアリ又只其入額ヲ得ルノ權ヲ有スル
モノアリ又土地ノ義務ノミヲ得ルノ權ヲ有
スルモノアリ

所有ノ權

第七十四條 財産所有ノ權トハ刑律及ヒ諸
規則ニ禁止スルノ外十分自己ノ意ニ適シタ
ル方法ニテ則産ヲ受用シ及ヒ財産ヲ取扱フ
ノ權ヲ云フ

第七十五條 公ケノ利益ノ為メニシテ且相
當ノ償ヲ得タルノ外其所有物ヲ奪ハル、
ナシ

第七百七十六條 動産不動産ヲ問ハス財産所有

ノ権アル時ハ天然又ハ人工ニ因テ其財産ヨ

リ生スル物及ヒ其財産ニ附加スル物モ又所

有スルノ権アリ是ヲ名ケテ本ニ因テ支ヲ併

スノ権ト云

財産ヨリ生スル物ニ付キ本ニ因テ支

ヲ併スノ権

第七百七十七條 左ノ物ハ本ニ因テ支ヲ併スノ

権ヲ以テ其所有者ニ属ス可シ

天然又ハ人工ニ因リ地ヨリ生スル物

法律上ニテ生スル利益 地代家賃金 銀利息ノ類

蕃殖シタル畜類

第七百七十八條 本主ノ知ラサル財産ヲ惡意ナ

クシテ占有シタル者ハ其財産ノ利益ヲモヒ

テ所得ト為スヲ得可シ若シ侵畧ノ心アリ

テ之ヲ有シタル者本主之ヲ知テ要求スル時

其財産ハ勿論其財産ヨリ生シタル利益ヲ
モ選與ス可シ

第七十九條 人ヨリ財産ノ讓リ渡ヲ得シ證
書ノ不正ナルヲ知ラスシテ其財産ヲ讓リ受
ケ之ヲ已レノ有ト為シタル時ハ惡意ナクシ
テ之ヲ占有セシモノト為ス可シ
其證書ノ不正ナルヲ知リタル後猶ホ之ヲ
有スル時ハ侵畧ノ心アリテ占有シタルモノ

ト為ス可シ

財産ニ附加シ且合同スル物ニ付キ本
ニ因テ支ヲ併スノ權

第八十條 財産ニ附加シ且合同シタル物
ハ如何ナル種類ヲ問ハス次ニ記載スル所ノ
規則ニ循ヒ其本タル財産ヲ占有者ニ屬ス可
シ

不動産ニ付キ本ニ因テ支ヲ併スノ權

第一百八十一條 土地ヲ所有スル時ハ自カラ其

地上地下ニ有ル物ヲ包含ス

土地ノ所有者ハ此篇土地義務ノ條ニ記スル

所ヲ除クノ外其地上ニ自己ノ欲スル所ノ種

植造學ヲ為スヲ得ヘシ

又礦坑ノ規則及ヒ地方ノ規則ニ定メタル所

ヲ除クノ外其地下ニ自己ノ欲スル所ノ造學

及ヒ窖穴ヲ掘リ且其中ヨリ生スル者ヲ取ル

ヲ得ヘシ

第一百八十二條 地上又ハ地下ニ在ル諸般ノ造

學種植及ヒ土功ハ別段ノ證アルキ、外其地

ノ所有者ニ屬ス可シ

但シ他人其地ノ建築物ノ下ニ在ル地害又

ハ其建築物ノ一部ヲ占有シテ三十年ヲ過

ル時ハ其者終ニ之ヲ所有ト為スノ權アリ

第一百八十三條 土地ノ所有者惡意ナクシテ已

レニ屬セサル品物ヲ用テ造営種植及ヒ土功
ヲ為タルキハ其品物ノ價ヲ拂フ可ク若本主
コレカ為ニ損害ヲ蒙ルルキハ相當ノ價金ヲ
出ス可シ然レ本主ハ其品物ヲ取戻スノ權ナ
シ

第百八十四條 土地ノ所有者ニ非サル人侵畧
ノ心有リテ其地ヲ占有シ已レハ品物ヲ以テ
種植造営及ヒ土功ヲ為シタルキハ本主其種

植造営及ヒ土功ヲ已レノ有トシ又ハ此諸般
ノ工作ヲ除去セシムルノ權アリ

本主其種植造営土功ヲ除去セシムルキハ其
費用ヲ出スニ及ハス其種植造営土功ヲ為シ
タル者ノ損失タルハシ且本主コレカ為ニ損
害ヲ蒙ルルキハ其相當ノ價ヲ要求ス可シ
若シ本主其種植造営土功ヲ已レニ有セント
欲スルトキハ其種植造営土功ニ回リ地價ノ

大政官
幾許増シタルヲ問ハス唯々其種植造営土切
ヲ為スニ用ヒタル品物ノ價ト及ヒ其工作ノ
費用ノ償ノミヲ出ス可シ

惡意ナリシテ土地ヲ占有セシニ因リ其地ヨ
リ生シタル利益ヲ所得トスル者其種植造営
土切ヲ為シタル時ハ本主コレヲ除去セシム
ルヲ得ス但シ之ヲ已ニ有セント欲ルキハ
占有者ニ其用ヒタル品物ノ價及ヒ工作ノ費

用ヲ償フ氏又ハ其種植造営土切ニ因リ地償
ノ増額ヲ償フ氏隨意タルハシ

五五六

第百八十五條 河流ノ傍側ニイツトナク次第

ニ附加セシ地ヲ名ケテ寄洲ト云フ

寄洲ハ其傍側ニアル土地ノ所有者ニ屬スハ

シ

五五七

第百八十六條 流水ノイツトナク彼岸ヲ侵シ
テ此岸ヲ退キ乾涸セシ地ヲ遺シ留ムル片モ

亦前条ニ同シ

海水ノ退キテ遺シ留ノタル乾涸ノ地ハ官有

ナリ

第百八十七條 河流ノ舟楫ヲ通スルト否トヲ

問ハス若シ暴漲シテ其傍側ノ地廣大ノ一部

ヲ裁割シ之ヲ下流又ハ對岸ノ地ニ移去シタ

ル明證アルキハ其裁割ヲ受タル地ノ所有者

猶其移去シタル地ヲ所有セントテ願ヒ出ル

ヲ得可シ然氏其願ヒハ一年間ニ為ス可シ

第百八十八條 河流中ノ島嶼洲渚ハ官有ナリ

但シ從來地券ヲ所持スルカ又ハ三十年間

之ヲ占有シタル者アリテ終ニ其所有ノ權

ヲ得タルキハ格別ナリトス

第百八十九條 若シ河流ノ新タニ支流ヲ生シ

河側ノ地ヲ裁割シテ之ヲ環繞シ島ト為シタ

ルトキハ猶其地ノ所有者ニ屬ス、シ

第九十條 舟楫ヲ通スルト否トヲ問ハス河
流其改道ヲ去テ新決ノ道ヲ為スルハ新タニ
河水ノ侵入セシ地ノ所有者其償ノ為メ各々
其失ヒシ他ノ割合ヲ以テ改道ノ地ヲ所有セ
シトシ願ヒ出ルヲ得可シ

動産ニ付キ本ニ因テ支ヲ併スノ權

第九十一條 所有者二人ニ屬シタル二箇ノ
動産ニ付テ本ニ因テ支ヲ併スノ權ハ全ク天

然ノ道理ニ順フヘシ然レバ次ノ規則ハ其時
ノ景状ニ從ヒ裁判役ノ考案ノ為メ之ヲ用フ
可シ

第九十二條 所有者ノ異ナル二箇ノ品物互
ニ連合シテ一物ヲ為スト雖氏之ヲ離分シテ
猶各全存ヲ得可キ時ハ其本品ノ所有者支品
ノ所有者ニ償ヲ償ヒ其全部ヲ所有ト為ス
ヲ得ヘシ

第九十三條 使用裝飾補成ノ為メ附添シタル者ヲ支品トス

第九十四條 然レ支品ノ價本品ノ價ヨリ大ニ貴クシテ且其支品ノ所有者之ヲ附添シタルコトヲ知ラサリシキハ其連合セシ本品ヲ少シク毀損スルコトアリト雖レ支品ノ所有者之ヲ離分シ已レニ選サシムルコトヲ得可シ

第九十五條 若シ連合シテ全部ヲ為シタル

二箇ノ品物中ニ何レヲ本品ト為シ何レヲ支品ト為ス可キコトノ分明ナラサル時ハ價ノ貴キ物ヲ以テ本品ト看做シ又其價槩不均シキキハ形ノ大ナル物ヲ以テ本品ト看做ス可シ
第九十六條 若シ工匠及ヒ其他ノ人已レニ屬セサル品物ヲ用ヒ新タル物ヲ造リシキハ其品物ノ旧ニ復スルヲ得可キト否トヲ問ハス其本主工價ヲ償ヒ之ヲ已レノ所有者ト為

スヲ得可シ

五七一

第百九十七條 然レトモ工價許多ニシテ其用

タル品物ノ價ヨリモ更ニ貴キトキハ其工

價ヲ以テ本ト為シ工匠ヨリ其本主ニ其價ヲ

償ヒ新造ノ品物ヲ所有ト為スヲ得ヘシ

五七二

第百九十八條 己レニ属スル品物ト己ニ属セ

サル品物トヲ併用シテ新ナル品物ヲ作り其

二箇ノ品物全ク其本質ヲ失フヲナシト雖モ

離分スル所ハ必ス之ヲ損ス可キニ於テハ其

所有者二人ニテ共ニ其新造ノ品物ヲ所有ス

ヘシ但シ其一人ハ己レニ属スル品物ノミニ

付テノ權ヲ有シ又一人ハ己レニ属スル品物

ト其工價トニ付テノ權ヲ有スヘシ

五七三

第百九十九條 數人ノ所有者ニ属スル數箇ノ

品物ヲ連合シテ一箇ノ品物ヲ造リ其數箇ノ

品物中ニ本品ト看做スヘキ物ナクシテ離分

大政官

スルヲ得ヘシ

若シ其品物ヲ離分シテ之ヲ損ス可キハ其
数人ノ所有者中各人ニ属シタル品物ノ性質
分量價額ノ割合ヲ以テ其新造ノ品物ヲ共有
スヘシ

第二百條

然レ数人ノ所有者中ノ一人ニ属
スル品物ノ分量及ヒ價額他ノ所有者ニ属ス
ル品物ニ数倍シタルキハ其品物ヲ所有スル

若他ノ品物ノ所有者ニ其價ヲ償ヒ其連合シ
テ造タル品物ヲ所有スルヲ得可シ

第二百一條

數箇ノ品物ヲ以テ新ニ造リタル
物ヲ其所有者数人ニテ相共ニ所有ト為シ其
利益ヲ分クニト欲スルハ之ヲ迫賣ニ為ス
可シ

第二百二條

本主知ルコトナク他人其品物ヲ用
ヒテ他種ノ品物ヲ造リシキハ本主其元品ト

同種同形同量同尺同質ノ物ヲ償ハセ又ハ其
價ヲ償ハスコトヲ得ヘシ

第二百三條

他人ニ屬スル品物ヲ其者ニ知ラ

シノスシテ用ヒタル時ハ元品ハ勿論其損害

ヲ其者ニ償フヘシ

但シ不正ノ所業アルハ其者ヨリ有罪ノ

訟ヲ為スコトヲ得可シ

入額所得ノ權

第二百四條

入額所得ノ權トハ他人ノ所有ス

ル物件ヲ保存シテ其入額ヲ得ルノ權ヲ云

第二百五條

入額所得ノ權ハ法律ニ因テ生ス

ルコトアリ又ハ各人ノ意ニ因テ生スルコトアリ

第二百六條

入額所得ノ權ハ約束期限ヲ定ム

ルアリ又ハ之ヲ定メサルアリ

第二百七條

同上ノ權ハ動産及ヒ不動産ノ各

種ニ付テ生スヘシ

入額所得者ノ權

第二百八條 入額所得者ハ其物件ヨリ生ス可
キ天然ノ利益人工ノ利益法律上ノ利益ヲ得
ルノ權アリ

第二百九條 天然ノ利益トハ土地ヨリ自然ニ
生スル利益ヲ云フ畜類ヨリ生スル物件及ヒ
増殖シタル畜類モ亦天然ノ利益ナリトス

第二百十條 人工ノ利益トハ土地ニ植付ヲ為

シテ得タル處ノ利益ヲ云フ

第二百十一條 法律上ノ利益トハ土地家屋ノ

貸賃金銀ノ利息年金ノ類ヲ云フ

第二百十二條 入額所得ノ權ヲ得タル時艸木

ノ枝根ニ附着セシ天然及ヒ人工ノ利益トナ

ル可キ者ハ其權ヲ得タル者ニ屬スヘシ又其

權ノ終リシ片ハ之ヲ其本主ニ屬スヘシ

但シ雙方ノ者ハ其労働及ヒ種子ニ付キ互

其償ヲ得ント要ム可カラス又入額所得ノ權ヲ得タルキ及ヒ其權ノ終リシキ其土地ノ収納物ノ一部ヲ得可キ借主アルトキハ其借主ノ權ノ差支トナルヲナカル可シ

第二百十三條 法律上ノ利益ハ日毎ニ之ヲ得ルモノナリト看做シ入額所得者其權ヲ有スル時間ノ割合ヲ以テ其利益ヲ得可シ

第二百十四條 入額所得ノ資本ト為ス可キ物件中ニ金錢穀物飲料ノ如ク之ヲ用フルルハ必ス耗尽ス可キ者アルニ於テハ其入額所得者之ヲ用フヘシト雖モ其權ノ終リニ至リテ其耗尽シタル物ト同量同質同價ノ物又ハ其初ノ評價シタル代金ヲ償還スヘシ

第二百十五條 生涯ノ年金ヲ得可キ者ハ其權終リニ至ル迄其年金ヲ全ク已レノ所得ト

為スヘシ

第二百十六條 入額所得ノ資本ト為ス可キ物
 件中ニ家具類ノ如ク直チニ耗尽スルヲナシ
 ト雖氏使用スルニ曰リ漸ク損敗ス可キ物ア
 ルキハ其權ヲ得タル者之ヲ用ヒ其權ノ終リ
 ニ至リ其マ、之ヲ返スヲ得ヘシ但シ惡意
 又ハ過失ニ曰テ之ヲ損敗シタルキハ之ヲ償
 フヘシシ

第二百十七條 土地ノ入額ヲ得ヘキ者本主ノ
 定メタル部分ノ外其地ノ大木ヲ伐ルヲ得
 ス唯意外ノトニ因テ倒レ或ハ折レタル大木
 ヲ其土地修復ノ為メニ用ルヲ得可シ
 但シ修復ノ為メ必用ナルキハ故ヤラニ其
 樹木ヲ伐倒スヲモ得可シト雖氏其必用
 ナルヲ本主ニ證スルノ後ニアラサレハ
 之ヲ伐ルヲ得ス

大政官

第二百十八條 菓樹ノ枯レ又ハ意外ノトニ因
テ倒レ及ヒ折レタルキハ土地ノ入額ヲ得ル
者之ニ代ヘニ新タニ菓樹ヲ植エ其枯レ又ハ
倒折セシ菓樹ヲ已レノ所有ト為スヲ得ハ
シ

第二百十九條 入額所得者ハ其權ヲ自カラ保
有シ又ハ代料ヲ得テ他人ニ貸與ヘ又ハ其權
ヲ賣拂ヒ又ハ代料ヲ得スシテ他人ニ讓リ與
フルヲ為シ得ヘシト雖モ本主ノ承諾ヲ得
ルヲ要ス

第二百二十條 土地ノ入額所得者ハ人ニ土地
ノ義務ヲ行ハシム可キノ權他人ノ土地ヲ通
行スルノ權及ヒ其他本主ノ得可キ權ヲ得ヘ
シ
但シ其權ヲ得ルノ方法モ亦本主ニ均シト
ス

第二百一十一條 土地ノ入額所得者其權ヲ有
スレ時間ノ雖モ土中ヨリ見出ス所ノ財貨ハ
已レノ益ト為ス權アリシ

第二百一十二條 本主ハ自己ノ所為ニ因リ又

ハ何レノ方法ヲ用フルヲ論セス入額所得者
ノ權利ヲ害ス可カラス

入額所得者ハ其權ヲ有スル時間物件ヲ良好
ニナシ其價増加シタルト雖モ其權ノ終リシ

寸其償ヲ求ムヘカラス然モ入額所得者及ヒ
其相續人ハ其備ヘオキタル家具及裝飾物等
ヲ移轉スルヲ得ヘシ
但シ此諸品ヲ備ヘ置キタル場所ハ以前ノ
形状ニ復スヘシ

入額所得者ノ義務

第二百一十三條 入額所得者ハ物件ヲ其寸ノ
景状ノ儘ニテ受取ルヘシ然モ其動産ノ目錄

第二百十四條

及不動産ノ模様ヲ明細ニ記載セル証書ヲ
取替ハサルハ其入額ヲ所得ト為スヲ得
ス

入額所得者ハ其物件ヲ毀損

セサルノ保證人ヲ立ツヘシ然レバ父母其子ノ
財産ノ入額ヲ所得ト為ストキハ保證人ヲ立
ルニ及ハス

第二百十五條

入額所得者其保證人ヲ立ル

ヲ能ハサル寸ハ本主其不動産ヲ他人ニ貸與
ヘ又ハ他人ニ附托シ又其金錢ハ利息ヲ得可
キ為ノ之ヲ貸附又其商品ハ之ヲ賣拂ヒ其代
金モ又貸附可シ

右ノ利息及不動産ノ貸債ハ入額所得者ニ属
ス可シ

第二百十六條

入額所得者保證人ヲ立ツル

ヲ能ハサル寸ハ本主其動産中ニテ使用スル

三因ノ損敗ス可キ物件ヲ賣拂ヒ其代金ヲ貸
附其利息ヲ所得者ニ與フヘシ

六四

第二百十七條 入額所得者其保證人ヲ立ツ

ルヲ遅延スト雖モ其權ヲ得タルヨリ以來
得可キ所ノ利益ヲ失フヲナシ

六五

第二百十八條 家屋ノ入額所得者ハ小補理

ノミヲ為ス可シ
修復ハ本主ニテ之ヲ為ス可シ

但シ入額所得者其權ヲ得タル後必要ナル
小補理ヲ為スヲ怠ルニ因リ家屋ノ損壞
シタル寸ハ入額所得者其修覆ヲ為可シ

六六

第二百十九條 修覆トハ牆壁及ヒ天井ヲ修

理シ梁椽及ヒ屋蓋ノ全部ヲ改造スルヲ并ニ
壕堤周垣家屋ヲ支持スル基礎ノ全部ヲ改造

スルヲ云フ
其他ノ修理ハ皆小補理ナリトス

第二百二十條 歲月ヲ經タルニ因リ自カラ崩潰シタル建造物及ヒ意外ノ事ニ因リ損敗シタル建造物ハ其本主及ヒ入額所得者モ之ヲ改造スルヲ義務ナシトス

第二百二十一條 入額所得者其權ヲ得ル時間其財産ニ付一切ノ税銀ヲ納メ其他入額中ヨリ償フ可キ毎歲定例ノ費用ヲ拂フ可シ

第二百二十二條 財産所有ノ權ニ付臨時ニ官

ニ出スル有ル可キ金高ハ其本主ト其入額所得者トニテ左ノ如ク之ヲ出スヘシ

本主ハ其金高ヲ拂ヒ入額所得者ハ其利息ヲ本主ニ算計スヘシ

若シ入額所得者其金高ヲ出シタル寸ハ其權ノ終リシ寸ニ本主ヨリ其元金ヲ取還ス可シ

第二百二十三條 遺言贈遺ニテ其財産入額所得ノ權ヲ得タル者ト所有ノ權ヲ得タル者ト

所有ノ権ヲ得タル者ト共ニ其財産ニ付テハ
負債アル時ハ其不動産ノ價ヲ算計シ其割合
ヲ以テ各擔當ス可キ高ヲ定ム可シ
又不動産ノ入額所得ノ権ヲ得タル者其負債
ノ高ヲ拂フヤハ其権ノ終ニ至リ利息ヲ得ル
ト無ク其元金ノ償還ヲ得ルシ
若シ又其入額所得ノ権ヲ得タル者其負債ノ
高ヲ拂フヲ承諾セサルヤハ所有ノ権ヲ得

タル者其負債ノ高ヲ拂ヒ入額所得者ヲシテ
其権ヲ有スル時間其利息ヲ算計セシメ又ハ
其不動産ニ属シタル負債ノ割合高ニ滿ル迄
ノ不動産ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二百二十四條 財産ノ入額所得者ハ其入額

ヲ得ルニ管係シタル訴訟ノ費用ト其訴訟ニ
因リ言渡サルヘキ償金トヲ已レニ擔當スヘ
シ

第二百二十五條 不動産ノ入額ヲ所得ト為ス
時間ニ他人其不動産ノ一部ヲ掠奪シ又ハ其
他ノ方法ヲ以テ本主ノ権利ヲ害スル寸ハ其
入額所得者ヨリ其由ヲ本主ニ報知スヘシ若
シ其ノヲ報知セスシテ本主ノ為メ損害ヲ生
シタル寸ハ其所得者之ヲ償フ可キヲ自カラ
損害ヲ加ヘタルト同一ナリ

第二百二十六條 畜類ニ付入額所得ノ權ヲ得

タル後其者ノ過失ニ非スシテ意外ノヲ又ハ
疾病ニ因リ其畜類ノ盡トク死シ或ハ失スル
寸ハ其代畜ヲ選與シ又ク其價ニテ償フニ及
ハス

但シ其皮或ハ其皮ノ價ヲ選與スヘシ
若シ畜類中ニテ死シ或ハ失有ル寸ハ入額所
得者其増殖スル畜類ヲ以テ其欠数ヲ補フヘ
シ

入額所得ノ権終ル方法

第二百二十七條 入額所得ノ権ハ左ノ方法ニ

テ終ルヲシ

入額所得者ノ死去シ及ヒ入額所得ノ期限ノ終ル

入額所得ノ権ハ所有ノ権トシテ一人ニテ併セタル

入額ヲ得可キノ権ヲ三十年間行ハサル

入額ヲ得可キ財産ヲ全ク滅盡スル

第二百二十八條 財産ヲ毀壞シ或ハ修理ヲ加

ハスシテ損敗セシニ因リ其権ヲ行フニ付テ

過失アル寸ハ其権終ルハシ

入額所得者ノ債主ハ所得者ト本主トノ間ニ

起ルヘキ訴訟ニ付テ已レノ權利ヲ保全ス可

キ為メ所得者ノ毀損セシヲ修繕セント述ヘ

且以後所得者ノ保證人トナルヘキヲ訴ル

ヲ得可シ

裁判後ハ其寸ノ景状ニ從ヒ或ハ其入額所得ノ權ハ全ク終ル可キトテ言渡シ或ハ入額所得者及ヒ其債主ニ其權ノ終リニ至ル迄本主ヨリ毎歲定數ノ金高ヲ償フ可キ約定ヲ為シテ財産ノ入額ハ本主ニ屬ス可キトテ言渡スハシ

六一九
第二百二十九條 病院學校等ニ與ハタル入額

所得ノ權ハ其期限三十年ヨリ多カラサル可シ

六二〇
第二百三十條 年齢ヲ期シテ人ヨリ受ケシ

入額所得ノ權ハ所得者其年齢ニ至ラヌシテ死去スト雖モ是メルル期限ニ至ル迄繼續スハシ

六二一
第二百三十一條 入額所得者アル財産ヲ其本主ノ賣拂ヒタル寸ト雖モ其所得者ノ權ニ變

更アルヲナシ

但シ其者豫メ財産ノ抛棄ヲ述タル寸ハ格別ナリトス

第二百三十二條 入額所得者其權ヲ抛棄シテ

債主ノ損害トナル可キ寸ハ債主ヨリ之ヲ差止ルヲ得ヘシ

第二百三十三條 入額ヲ所得ト為ス可キ財産

ノ一部分ノ滅盡シタル寸ハ猶其存在セル部

分ニ付キ入額所得ノ權ヲ保有スヘシ

第二百三十四條 若家屋ノミニ付キ入額ヲ得

可キノ約アリテ其家屋火災及ヒ其他意外ノ

事ニ因リ滅盡シタル片又ハ歲月ヲ經タルニ

因リ崩壊シタル寸ハ其家屋ノ地及ヒ屋財ニ

付キ入額ヲ得ルノ權ナシ

又家屋土地其他一切又合併シテ入額ヲ得可

キノ約アル寸ハ同上ノ場合ニ於テ其家屋ノ

地及ヒ屋財ノ入額ヲ得ルノ權アリ

土地ニ屬スル義務

第二百三十五條 土地ニ屬スル義務トハ一方

ノ地ノ利益要用ノ為メ一方ノ地ニ屬スル義

務ヲ云フ

第二百三十六條 土地ニ屬スル義務ハ或ハ其

地ノ天然ノ位置ヨリ生シ或ハ法律ニテ定ム

ル所ヨリ生シ或ハ所有者ノ間ニ互ニ結ビタ

ル契約ヨリ生ス

土地ノ位置ヨリ生スル義務

第二百三十七條 低下ノ地ハ高阜ノ地ヨリ人

工ヲ用ヒス自然ニ流下スル水ヲ受クヘキノ

義務アリ

低下ノ地ノ所有者ハ此流下スル水ヲ防ク可

キ為メ堤ヲ築ク可カラス

高阜ノ地ノ所有者殊更ニ低下ノ地ヲ煩ハシ

ハ可キコトヲ為スコカラス

六四一

第二百三十八條 已レノ土地内ニ水源ヲ有ス

ル者ハ隨意ニ之ヲ用フルコトヲ得ヘシ

但シ低下ノ地ノ所有者契約ニ因リ又ハ三

十年來其水ヲ用ヒタルニ因リ得タル処ノ

權利ヲ妨ク可カラス

六四三

第二百三十九條 水源ノ所有者其近隣ノ住民

ニ必要ナル水ヲ給スル寸ハ其水路ヲ更改ス

ヘカラス然レ其住民等契約ニ因リ又ハ三十

年來之ヲ用タルニ因リ其權ヲ得タル寸ノ外

ハ水源ノ所有者其相當ノ價ヲ求ムルコトヲ得

可シ

六四四

第二百四十條 公有ニ非ナル流水ノ傍側ニア

ル土地ノ所有者ハ已レノ土地ヲ潤ス可キ為

メ其水路ニ於テ水ヲ用フルコトヲ得可シ

其流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ其流過ス

此場所ニ於テ其水ヲ隨意ニ用フルコトヲ得可
シ然レ其境ヨリ流レ出ル水ハ必ス之ヲ當然
ノ水路ニ復ス可シ

第二百四十一條 若シ其水ヲ以テ利益ト為ス
土地ノ所有者數人ノ間ニ訴訟ノ生スルトキ
ハ裁判處ニテ其土地ヲ所有スル權ヲ保護ス
可キ道理ト農業ノ利益トヲ斟酌シテ裁判ヲ
言ヒ渡シ且何レノ場合ニ於テモ水路ノ一及

ヒ水ヲ用ユルコトニ向キ其各地ノ規則ニ循ル
ハシ

第二百四十二條 土地ノ所有者ハ其隣人ヲシ
テ相接シタル土地ニ垣牆ヲ造ラシムルコトヲ
得可シ。其垣牆ノ費用ハ雙方ヨリ之ヲ償フ
可シ。

第二百四十三條 土地ノ所有者ハ他人通行ノ
義務ヲ除クノ外其地ノ周圍ニ垣牆ヲ造ルコト

ヲ得可シ

法律ニテ定メタル土地ノ義務

六四九

第二百四十四條 法律ニテ定メタル土地ノ義

務ハ通國ノ利益又ハ區内ノ利益又ハ一人ノ

利益ノ目的トスル者ナリ

六五〇

第二百四十五條 通國ノ利益又ハ區内ノ利益

ノ為メ定メタル土地ノ義務ハ舟楫ヲ通ス可

キ河流ノ傍側ニ舟楫ノ牽路ヲ設ケ置クヲ道

路ヲ造リ又ハ修理スルヲ其外通國又ハ區内

ニ管スル土功造営ヲ為スヲ目的トス

此類ノ土地義務ニ管シタル諸件ハ工部土木

地方等ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

六五一

第二百四十六條 土地ノ所有者互ニ結ビタル

契約ナシト雖モ法律上ニ於テ其間ニ互ニ數

種ノ義務ヲ生ス

六五二

第二百四十七條 其義務中ニ田野取締ノ規則

六五三

二因テ之ヲ定ム可キ部外アリ
其他ノ義務ハ雙方ノ所有ニ属スル分界ノ牆
壁及ヒ溝渠ニ管シ又隣地ヲ見通スヲ及ヒ承
雷ニ管シ又ハ土地通行ノ權ニ管ス

溝渠
雙方ノ所有ニ属スル分界ノ牆壁及ヒ

第二百四十八條 凡分界ノ牆壁ハ雙方ノ所有

ニ属スルモノトス

六五四

但シ之ニ及シタル証書及ヒ憑據アル寸ハ
格別ナリトス

第二百四十九條 牆壁ニ控ヘ抗等アルトキハ

其方ニ属スル証據トス

六五五

第二百五十條 雙方ノ所有ニ属スル分界ノ

牆壁ヲ修復改造スル寸ハ各具割合ヲ以テ其

費用ヲ擔當ス可シ

六五八

第二百五十一條 一方ノ者其分界ノ牆壁ノ高

サヲ増ス寸ハ之ヲ高ク為スノ費用及ヒ其増シタル部分ヲ修復スルノ費用ヲ擔當スヘシ
第二百五十二條 分界ノ牆壁ノ高サヲ増ス寸若シ破壊スヘキノ恐アルニ於テハ之ヲ高ク為サントスル者自己ノ費用ヲ以テ其全部ヲ改造シ且其厚サヲ増ス為メ必要ナル地ハ自己、地内ヲ用エ可シ

第二百五十三條 其隣人ハ牆壁ヲ高ク為スノ

助ヲ為サスト雖モ後其費用ノ半ハト其厚サヲ増シタル地稅ノ半ハトヲ出ス寸ハ共有スルヲ得可シ

第二百五十四條 牆壁ニ接シタル地ヲ所有スル者ハ其牆壁ノ價ノ半ハト其牆壁ノアル地稅ノ半ハトヲ其所有者ニ償フ寸ハ其全部ヲ共有スルヲ得又一部ノ費用ノ半ハト其地稅ノ半ハトヲ償フ寸ハ其一部ヲ共有スルヲ

ヲ得可シ

第二百五十五條 分界ノ牆壁ヲ所有スル雙方

ノ者ハ互ニ其隣人ノ承諾ヲ得スシテ其牆壁

ニ穴ヲ穿テ及ビ其牆壁ニ傍ヲテ物ヲ造作ス

ルヲ得ス

第二百五十六條 凡ソ牆壁ノ高サハ八尺タル

可シ

但シ土地家屋ノ形状ニ循ヒ或ヒハ衆庶ノ

熟知シタル仕来リニ從ヒ高低アルモ可ナ

第二百五十七條 家屋ノ層階ヲ所有スル者各

々異ナルトキ証書ニ因リ修復改造スル方法

ヲ定メシコトナキニ於テハ左ノ法ニ從フヘ

シ

大ナル牆壁及ヒ屋蓋ハ各所有者其所有ノ層

階ノ價ニ準シ其費用ヲ出ス可シ

六六五

各層階ノ所有者ハ其牀板ヲ造ルヘシ
 二階ノ所有者ハ其二階ニ登ル梯子ヲ造リ三
 階ノ所有者ハ其三階ニ登ル梯子ヲ造ルヘシ
 第二百五十八條 家屋及ヒ雙方ノ所有ニ属ス
 ル分界ノ牆壁ヲ一方ノ者都合ニヨリ改造ス
 ト雖氏雙方ノ義務ニ於テ変更ナシトス
 第二百五十九條 二箇ノ土地ノ中間ニアル溝
 渠ハ雙方ノ所有ニ属スル分界ナリ

六六六

但シ別段ノ證書憑據アルナラバ此限ニア
 ラス

六六九

第二百六十條 雙方ノ所有ニ属スル分界ノ
 溝渠ハ雙方ノ費用ヲ以テ之ヲ修理スヘシ
 第二百六十一條 二箇ノ土地ヲ分界スル植籬
 ハ雙方ノ所有ニ属スヘシ

六七〇

但シ其二箇ノ土地中ノ一箇ノミヲ圍繞シ
 タル可又ハ其植籬一方ノ所有者ノミニ属

スル証アル寸及ヒ三十年未一方ノ所有者
 ノミニテ之ヲ用ヒタル寸ハ格別ナリ
 第二百六十二條 別段ノ規則及ヒ従前ノ仕来
 リニ因リ定リタル距離ニ非サレハ大木ヲ植
 フ可カラス又其規則及ヒ仕来ソナキ寸ハ大
 木ハ經界ノ線ヨリ六尺ヲ除キ其他ノ樹木及
 ヒ分界ニ非ル植籬ハ一尺ヲ除テ之レヲ植エ
 ンシ

第二百六十三條 前条ノ規則ヨリ少キ距離ニ
 植タル樹木ハ隣人ヨリ之ヲ除去ルヘキノ求
 メヲ為スコトヲ得ヘシ
 隣人ノ樹枝已レノ土地内ニ侵入シタル寸ハ
 隣人ヲシテ之ヲ伐テシホルコトヲ得可シ若シ
 隣人ノ樹根已レノ土地内ニ侵入シタル寸ハ
 自カラ之ヲ伐ルノ權アリ
 第二百六十四條 雙方ノ所有ニ属スル分界ノ

植籬中ニ在ル樹木ハ其植籬ニ等シク雙方ニ
属シ何レノ方ト雖氏之ヲ伐ルヲ求ムルノ權
アリ

造営土功ヲ為スニ必要ナル距離ノ事

第二百六十五條 雙方ノ所有ニ属スルト屬セ

サルトテ間ハス分界ノ牆壁ニ傍ト又ハ二家
ノ中間ニ井竈煙出火爐鑄造所及不淨壺ヲ造
リ又獸欄塩庫及ヒ物ヲ腐蝕スヘキ品物ノ貯

場ヲ造ラントスル者ハ害ヲ隣人ニ為スヲ避
ルカ為メ従前ノ仕末ニテ定リタル距離ヲ餘
シ造営土功ヲ為スヘシ

隣地ヲ見通ス

第二百六十六條 凡土地ノ所有者ハ隣人ノ許
諾ヲ得スシテ雙方ニ属スル分界ノ牆壁ニ窓
及ヒ庇ヲ穿ツ可カラス

但シ其窓ハ開閉セサル玻璃板ヲ用ヒタル

モノト鮮氏之レヲ造ルコトヲ許ヤス

第二百六十七條 一方ノミニ属スル牆壁ニハ

開闕セサル格子窓ヲ造ルコトヲ得ハシ

第二百六十八條 凡隣地ヲ直視ス可キ窓及椽

側等ハ隣人ノ許諾ヲ得ルニ非レハ之ヲ造ル

コトヲ得ス

但シ其距離六尺以上アル寸ハ此限りニ非

ス此距離ヨリ進キモノハ目翳ヲ造ルハシ

承審

第二百六十九條 家屋ノ所有者ハ已レノ土地

内又ハ往還ノ道路ニ雨水ヲ流下セシム可キ

方法ヲ以テ其屋蓋ヲ造ルハシ隣人ノ地内ニ

雨水ヲ流下セシム可カラス

通行ノ權

第二百七十條 所有スル土地ノ周圍ニ他人

ノ土地アリテ往還ノ道ニ至ルハキ路ナキ寸

ハ隣地通行ノ權ヲ求ムルヲ得ヘシ
但シ此等ニ付隣地ニ生スヘキ損失ノ償ヲ
出ス可シ

六八三

第二百七十一條 其路ハ必ス隣地内ニテ自己

ノ地ヨリ往還ノ道ニ最モ近キ部分且隣地ノ
為ノニ氣モ損害ノ少ナキ部分ニ之ヲ造ル可
シ

六八五

第二百七十二條 前条ニ記セシ償ヲ求ムルノ

訴訟ハ之ヲ三十年内ニ為サ、ルニ於テハ終
ニ其權ヲ失フヘシ

但シ其償ヲ得可キ者既ニ其訴訟ヲ為スノ
權ヲ失フタル寸ハ至ルト雖モ通行ノ權ヲ
得タル者ハ之ヲ失フコトナカルヘシ

契約ニ因リ生スル土地ノ義務

六八六

第二百七十三條 所有者ノ意ニ隨ヒ其土地家
屋ニ付キテノ義務又ハ權利ノ限量ハ其証書

ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

若シ証書ヲ失ヒシ寸ハ義務ヲ為ス地ノ所有
者ノ記シタル書類アルニ非レハ其權利ヲ失
フ可シ

起源ノ推知シ難キ寸ヨリ此義務アリト雖氏
証書ナクシテ之ヲ定ムルヲ得ス然氏三十
年来仕末ニヨリ繼續シタル处ノ義務ハ証書
無ト雖氏之ヲ取消スヘカラス

第二百七十四條 土地家屋ヲ借ル者其土地家

屋ニ付テノ義務ハ別ニ証書ナシト雖氏本主
ノ定ヲ以テ是レリス

第二百七十五條 現今ニ箇ニ分レタル土地以

前一人ノ本主ニ属シ且其本主其土地ヲ現今
ノ義務ヲ生スヘキ景状ト為シ置タルノ証ア
ル寸ハ本主ノ定メニ從フヘシ

第二百七十六條 二箇ノ土地ノ間ニ義務ノ證

六九六

アリテ其二箇ノ地ヲ所有スル者別段ノ契約ヲナサズ其一箇ヲ他人ニ賣タル寸ハ其賣タル土地ノ權利義務従前ノ如クタルヘシ

第二百七十七條 義務ヲ定メタル寸ハ此ニ屬

シタル諸件モ亦承諾シタリトスヘシ譬ハ巴ノ地内ノ噴泉ヲ他人ニ汲マシムル義務アル寸ハ其通行ノ權モ亦承諾シタルトスルカ
如シ

六九七

土地ノ義務ヲ得ル者ノ權

第二百七十八條 土地ノ義務ヲ得ル者ハ之ヲ

保全スルニ必要ナル造管及ヒ土切ヲ為スノ權アリ

六九八

第二百七十九條 此造管及ヒ土切ハ其義務ヲ

得ル者ノ費用ヲ以テ之ヲ為シ其義務ヲ為ス者ノ費用ヲ以テ之ヲ為ス可カラズ

但シ其義務ノ証書ニ之レニ及シタル條件

ヲ記シタル寸ハ格別ナリ

第七
第二百八十條 義務ヲ得ル人若シ其土地ヲ分
チタル寸ハ各其權アリトス然レ氏其地ノ義
務ヲシテ更ニ煩ナラシムルコトナカル可シ故
ニ通行ノ權ニ付テハ其分チタル土地ノ各所
有者必ス同一ノ道ヲ通行スヘシ

第七一
第二百八十一條 義務ヲ為ス地ノ所有者ハ其
義務ヲ得ヘキ者ノ利益ヲ減シ又ハ其權ヲ行

フニ不便ナルコトヲ為スヘカラス

故ニ義務ヲ為ス地ノ所有者ハ土地ノ模様又
ハ從來ノ場處ヲ変易スヘカラス

然レ氏從來定マリシ場所ニテ其義務ヲ為ス
地ノ所有者ノ為メ損害ヲ増スニ至ル可キ寸
又ハ其所有者其地内ニ有益ナル修復ヲ為ス
ノ妨トナル寸ハ義務ヲ得ル地ノ所有者ニ從
来ニ等シク便利ナル部分ヲ換用スヘキノ求

メヲ為スヲ得ハシ

但シ此寸ハ義務ヲ得ル地ノ所有者其求メ
ヲ肯セサルヲ得ス

第二百八十二條 土地ノ義務ヲ得ル者ハ其義
務ヲ得ル土地ニ於テモ又ハ義務ヲ為ス土地
ニ於テモ其地ノ景状ヲ変易シテ本主ノ煩ヲ
為ス可カラズ唯其證書ニ循テ其權ヲ行フハ
シ

土地ノ義務ノ終ル方法

第二百八十三條 土地ノ義務タル物件ノ用フ
可カラサル景状ニ至リシ寸ハ其義務モ亦終
ルハシ若シ其物件再々用フルヲ得ハキ景
状ニ復シタル寸ハ其義務モ亦復スハシ
第二百八十四條 土地ノ義務ハ三十年間之ヲ
行ハサルニ因リ終ルハシ

第二百八十五條 若シ義務ヲ得ル土地数人ニ

属スルナハ其中ノ一人其權ヲ行ヒタルニ於
テハ其他ノ者三十年間之ヲ行ハスト雖モ終
ニ其權ヲ失フニ至ルヲナカルヘシ

